

〔第167回明専塾（グローバルに活躍する情報工学部OB）〕

就職と明専塾

情報工学府学際情報工学専攻M2 森 剛史



明専塾に参加する動機

興味のある企業や業種を知るために明専塾に参加する人も多いと思いますが、私は社会人になって働くとはどういうことなのかを知るために参加しています。会社に入るとどのような生活になるのか、学生と何が違うのか。未知なことに對する不安な気持ちを軽減したく、これまで明専塾にできるだけ参加してきました。学内で、つまり移動の手間なく、自身と同じ大学の先輩の話が聞けることに、ありがたいと思っています。今回は特に海外で働くことについて知りたいと思い、参加しました。

講演会で得た話

今回の明専塾は通常のものとは違い、異なるキャリアを進んだ先輩二人による講演でした。どちらの講演も、仕事内容やご自身の実際の体験はもちろんのこと、私たちへの有益なアドバイスをいただきました。

米田さんは8社ほど転職を繰り返して、現在LEANPLUMで働いています。私たちには「チャンスがあつたらすぐ行動、そしていつチャンスが来てもよいように日々鍛錬すること」を勧めて下さいました。そのアドバイスを裏付けるような、米田さんが普通はすぐに会うことのできない大きな会社のトップ3と面会の約束を取った体験談は、日々の積み重ねと行動を続けた結果手に入れた話であると感じました。

大塚製薬に勤める崎山さんからは、ビジョンの大切さ・正しいことをするということ2点をアドバイスして下さいました。

いました。将来の目標を決め、そこからやるべきことを逆算して考えると、時間はあまりないと言われました。

お二人に共通して、責任と意思を持って行動を選択すれば、次のアクションにつながるという話があり、お二人とも行動し続けている方々なのだと改めて感じました。

懇親会という場

講演の後の懇親会にも参加しました。ラーニングアゴラで立食式の食事を交えたこの場では、講演された先輩方と直接、自由に話すことができます。私は今回、先輩方から話しかけてもらい、話をする事ができました。

しかし、私は質問がすぐに思いつかず、そのことについてなぜなのか今考えみると、参加前に「社会人」になることに對して漠然とした不安は持つていても、具体的な原因はわかっていませんでした。また講演で聞いた内容に對して、「なるほど、そのような考え方があるのか」と受け止めただけで終わっており、その場でもう一つ疑問を深めることができていません。後になって、行動を

続けるモチベーションを維持する方法や、私が海外に実際に行く時の心構えなど、聞きたいことが色々出てきて後悔してしまいました。一緒に参加した友人は懇親会で、米田さんが紹介したVR事業について、質問をしていました。そこから二人は、講演会では聞けない深い話をテンポよく行っていました。その様子を見て、懇親会は、自分が元々持っている知識と、新たに揭示してもらった話を合わせて深掘りしながら議論を行う場所であるのかもしれないと思いました。常に情報を集め、またこのような場があつたときにはもつと議論ができるようになることを目標に、行動していきたいと思えます。

おわりに

お忙しい中、私たち学生のために、時間をつくり、講演を行っていた米田さんと崎山さん、10年もの間、このような場を用意し続けてくれた明専会、および九州工大の職員の皆様へ感謝し、今後も明専塾が続いていくことを願います。